

第5学年 体育科学習指導案（令和7年12月11日）

第5学年1組（39名）

指導者 永野 佳太

1 単元名 ボール運動「ゴール型」（教材：バスケットボール）

2 単元の目標

- (1) ゴール型の行い方を理解するとともに、ボール操作とボールを持たないときの動きによって、簡易化されたゲームをすることができる。 (知識及び技能)
- (2) ゴール型のルールを工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ゴール型に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①ゴール型の簡易化されたゲームの行い方について言ったり、書いたりしている。 ②投げる、受ける、運ぶといったボール操作ができる。 ③ボール保持者からボールを受けることのできる場所に動くななどのボールを持たないときの動きができる。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート広さ、プレイの制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ②ゲーム中の立ち位置や動き方、パスの仕方について考えたことを他者と伝え合っている。	①ゴール型の簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合おうとしている。 ③ゲームを行う場の設定や用具の片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ④ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑤ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑥ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

4 単元計画と評価の重点

	学習内容	評価の重点		
		知技	思考	主体
1	オリエンテーション、ドリブル・パス・シュートの基礎			⑥
2	試しのゲーム	【ねらい1】 バスケの試合に慣れ、基礎的な技能を身に付ける。	①	③
3	パスのポイントを見付ける			④
4	シュートのポイントを見付ける		②	①
5	ボールを持っていないときの動きのポイントを見付ける		③	
6	作戦を話し合っ試合を行う	【ねらい2】 チームで考えを伝え合い、作戦を立てる。		①
7	作戦を話し合っ試合を行う			②
			②	⑤

5 本時の学習（5／7）

(1) 本時の目標

ボールを持たないときの動きについて、動画を見ながら考えたり、タスクゲームに取り組んだりして、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。 (知識・技能)

(2) 本時の指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点 ○：評価項目（評価方法）【Aの例】 「努力を要する」状況と判断される児童への手立て
はじめ 10分	<p>1 準備運動、学習の準備を行う。</p> <p>2 基礎感覚作りの運動を行う。</p> <p>①腰まわし 10回 ②ひざ回し 10回 ③8の字回し 10回 ④その場ドリブル 20回 ⑤ランニングドリブル 1周 ⑥チェストパス人数×5回 ⑦バウンズパス人数×5回 ⑧シュート（時間まで）</p> <p>3 本時の活動を知り、自分のめあてを立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> チームごとに準備を行わせることで、待ち時間を減らし運動量を確保できるようにする。 単元を通して、同じ基礎練習を行わせることで運動量の確保に加え、技能の向上が図れるようにする。 自分の課題を捉えたためあてを紹介することで、児童一人一人が自分に合っためあてを立てられるようにする <p>ボールを持っていないときの動きのポイントを見つける。</p>
なか① 15分	<p>4 ボールを持っていないときの動き方の練習を行い、ポイントを考える。</p> <p>①タスクゲーム「10秒2vs1」を行う。 ②動画を見て、ポイントを考える。 ③ポイントを意識して、「10秒2vs1」練習を行う。 （ポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フリー」になる 空きスペースに動く <p>※パスのタイミングを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> パスに特化した練習を行わせることで、ボールを持たないときの動きについて焦点化して取り組めるようにする。 「10秒以内にパスがもらえたら勝ち」という条件を入れることで、ゲーム感覚で練習ができるようにする。 動画を見て動きのポイントを考えさせることで、「ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する」というポイントに自分たちで気付けるようにする。 ポイントをキーワード化することで、周囲の声かけや指導者の評価を行いやすくする。 <p>○ ボールを持たないときの動きについて、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動することができる。（観察・ICT）</p> <p>【Aの例】 ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように素早く移動することができる。</p> <p>「ここに動くといいよ」と実際に動きを体験させたり、友達の様子を見せながら「○○さん（得意な児童）はどこに動くかな？」と尋ねたりして個別に指導を行う。またチームの仲間から動きの指示を出してもらうように声をかける。</p>
なか② 15分	<p>5 ゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハーフコート ドリブルなし 守りを一人少なくする チーム全員がゴールを決めたらボーナスポイント <p>①第1クォーター（3分） ②作戦タイム（2分） ③第2クォーター（3分） ④作戦タイム（2分） ⑤第3クォーター（3分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ドリブルなしというルールにすることで、パスを行わないといけない状況をつくり、チームで協力して得点できるようにする。 守りを一人少なくすることで、練習した動きを行いやすくする。 ボーナスポイントを取り入れることで、できるだけ全員がシュートを打てるようにする。 音楽とスクリーンを使用することで、教師の指示がなくても試合の入れ替え等が行えるようにし、運動量の確保を図る。
まとめ 5分	<p>6 片付けを行う。</p> <p>7 ふり返しを行う</p> <p>8 まとめを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持たないときは、ボール保持者と自己の間に守備者が入らないように移動する（「フリー」になる）ということにふれながら振り返っている児童のふりかえりを取り上げ、本時のポイントを確認する。